

# 「モノデザイン」から「コトデザイン」へ

西川 雅夫

セキセイ株式会社 代表取締役会長

大阪デザインセンター 理事

ODC創立60周年、誠におめでとうございます。

昭和35年といえば、私が小学校6年生、まさに昭和39年のオリンピックに向かって日本中が盛り上がっているころに大阪デザインハウスが発足されました。あの頃、東京～大阪3時間10分の新幹線開通に希望を託していた記憶がございます。そして、あの新幹線の流線型のデザインは日本中に感動を与えたものでした。まさに日本の高度成長の幕開けであり、あらゆるデザインが一斉に開花の時を迎えようとしていた頃だったように思います。

そんな時代から60年、モノに溢れた成熟社会の訪れとともに、モノづくりからコトづくりへと時代は進化しています。経済の流れは、生産・製造から流通・物流へさらに、店舗から無店舗へとIT全盛と共に、その流れは大きく変化し、GAFaのような新しい企業が台頭して決済手段もビットコインのような銀行代行の仕組みが作られる時代になっております。

グローバル化した、巨大企業の出現は、モノづくりに価値観の基準そのものさえ変えるだけの社会的影響力を持つ存在になりつつあるように思います。それは、新たな価値観の創造であると同時に、SDGsの推奨する環境や生命はもとより、飢餓やジェンダー等的人権にまで及んでゆくものと思われれます。モノづくりからコトづくりへの変化は、ITのもたらすAIの活用によって価値観の変化をもたらし、人類の進化とともに個人の幸せや満足の基準の違いにまで発展してゆくでしょう。

私も、日本独自の文化や、その背景となる精神的思考を、漆塗り蒔絵を通じて、世界に発信すべく、G7伊勢志摩サミットやG20大阪サミットにおいて、安倍首相からの贈答品として各国首脳に手渡された輪島塗蒔絵ボールペン「雅風」の創作師として参画できたことは誠に光栄に存じております。

日本の精神文化の一つに茶道があり、千利休が堺で開祖した流派、裏千家15代の千玄室大宗匠が提唱されている茶道の言葉に「和敬清寂」がありますが、これは和やかな中にも、互いに尊敬しあう清らかな心を持ちながら、毅然とした信念のもとに生きるさまを表しています。

利己から利他への精神文化を創造することは、その背景にあるグランドデザインともいべき思想がコトづくりの文化を育み、やがて社会に受け入れられてゆくことでしょう。コロナ禍のもと、世界的観点でとらえなければならない情報共有化の必然性が、地球規模で全てを捉え直して考えるコトづくり文化に進化してゆくことが今求められています。

モノづくりからコトづくりへ、モノデザインからコトデザインへの移行期に差し掛かっている現在、私どもは国連が推奨する命や環境保護のために、持続可能な開発を目標に脱炭素、脱化石燃料を目指したグランドデザインを早急に描かなければなりません。

私は、昨年NPO法人ジャパン・メディカル・ケア・アソシエーション(J M C A)の理事長を拝命し、来るべく大阪・関西万博（2025年日本国際博覧会）に向かって大阪府の吉村知事や、大阪商工会議所の尾崎会頭が唱えるSDG s の趣旨・精神に沿った「命輝く未来社会のデザイン」の構築に向けて真摯に取り組んでゆく所存でございます。

大阪・関西万博をひかえ、日本のデザインを世界に発信できる一大チャンスのお機会到来とともに、創立60周年を迎えられる一般財団法人大阪デザインセンターの益々の発展をお祈り申し上げます。

